

平成22年度 後期 南紀熊野サテライト大学院授業科目

|        |                 |             |      |
|--------|-----------------|-------------|------|
| 授業科目名  | 異文化交流           |             |      |
| 単位数    | 2               | 授業形態        | 講義   |
| 担当教員   | 柏原 卓・吉村 旭輝・東 悦子 |             |      |
| 実施日・時間 | 11月5日(金)        | 17:30~20:40 | 柏原 卓 |
|        | 11月6日(土)        | 9:30~15:00  | 〃    |
|        | 11月12日(金)       | 17:30~20:40 | 吉村旭輝 |
|        | 11月13日(土)       | 9:30~15:00  | 〃    |
|        | 11月19日(金)       | 17:30~20:40 | 東 悦子 |
|        | 11月20日(土)       | 9:30~15:00  | 〃    |

【講義内容】

柏原 卓 担当：－コトバを通して見る－

国とか村といったある地域の文化には、外部から影響を受けて混合文化を形成するとともに、いっぼうで外部に影響を与えるという、異文化交流の現象が広く認められます。それを詳しく見れば、産業・制度・習俗などのコト、産物・道具などのモノ、思想・宗教などココロ、それらを運ぶヒト(ないし集団)など多方面にわたります。多くの場合、そうした文化の一つ一つにそれを名づけたコトバがあります。そのため「コトバは文化の乗り物」と言われ、コトバを通して異文化交流を観察できる可能性が出てきます。

この講義では、まず国際的交流について「日本語への漢語・外来語借用」という受容の面、および「外国語の中の日本語」という発信の面を中心に、北東アジアでの語彙の交流に若干言及し、また国内の地域間交流について「方言語彙の分布」から、コトバを手がかりに考えます。

吉村 旭輝 担当：－和歌山県の文化と民俗－

和歌山県の文化や民俗はどのようにして育まれてきたのか。

一般的に文化や民俗という事象はひとつの事象からは把握しきれない側面を有しています。それらをあらゆる視点で広範囲に検討することによって、さまざまな時代での特色が明らかになります。

本講義では紀中地域を中心として祭礼での行事や芸能などをとおして、さまざまな文化や民俗の流入や伝播の問題を異文化交流の類例として考察していきます。

東 悦子 担当：－移民の歴史を通して－

最後に本講義では、和歌山県の沿岸地域から北米、ハワイ、カナダ、オーストラリアに渡った移民者の歴史の一端を振りかえることにより、多くの移民者を輩出した「移民母村」および移民地に見られる文化交流の軌跡を探ります。国際交流のさきがけとも呼べる移民者が接触した異文化とはどのようなものであったか。また移民者を通して、「移民母村」にどのような影響がもたらされたのか。移民者の生活を通して、異文化交流について考察します。

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

授業時に指示します。

（参考）

- ・佐藤喜代治『日本の漢語』（角川小辞典）
- ・『日本国語大辞典』（小学館）
- ・小山豊(1992)『紀州の祭りや芸能』国書刊行会など
- ・その他、授業中に示します。

【事前学習】

授業前までに、上記の問題意識に関係ありそうな地域の方言をリストアップしたり、漢語や外来語や方言に関する書物を読んでみましょう。インターネットが使える方は「各地の方言」「外国語になった日本語」「漢語外来語」などで検索してみましょう。(柏原)

授業前までに地元(住んでいる場所や生まれ育った場所)の祭礼で行なわれている行事や芸能(伝承や組織など)を調べてみましょう。またその地域の歴史を調べてみましょう。(和歌山県外でも構いません。)(吉村)

インターネットが利用できる方は、和歌山市民図書館移民資料室のホームページで、和歌山県からの移民者について事前に調べてみましょう。また和歌山県日高郡美浜町にあるカナダ資料館では、美浜町三尾からカナダへ移民した人々の生活の様子などを知ることができる資料を展示しています。機会があれば訪ねてみましょう。(東)